

平成 29 年度 大阪府立高津高等学校 第 2 回学校協議会 記録

○日 時：平成 29 年 12 月 20 日（水）

○場 所：大阪府立高津高校 校長室

○出席者（敬称略、委員は 50 音順）

- 委 員 新崎 国広（大阪教育大学教育学部教授）
木山 千鶴（本校同窓会副会長）
竹村 伍郎（地域情報誌「うえまち」編集局長）
東郷 俊也（本校 P T A 会長）
中川 哲也（高風クラブ副理事長）
森田 英嗣（大阪教育大学大学院教授）

事務局 村田 徹（校長）、藤原 隆志（教頭）、石田 暁（事務長）、伊勢田佳典（首席）
山口 優（首席）、菅 康之（企画広報部長）

1. 校長挨拶

- ・高尾千秋委員退任及び 新崎国広委員着任の報告
- ・各委員・事務局自己紹介

2. 学校からの説明

（1）平成 29 年度「学校経営計画」の進捗状況等について

今年度の学校計画について、主に現時点で結果の出ている項目について報告

【中期的計画】

① 生徒のもつ学力を最大限に引き出す

- ・授業アンケートを実施し、生徒の意見を聞くことで、授業内容のさらなる改善・充実を図ることができ、生徒の学力向上のための指導の方向性を考えさせてくれるものとなっている。
- ・7月に実施した第1回アンケート結果のうち項目8・9（内容に興味・関心が持てた。知識・技能が身についた。）は4点満点中3.22点であった（設定目標3.2以上）。12月に実施した第2回アンケート結果は、現在集計中。
- ・英検に関しては12月時点で、2級以上が1年生73人、2年生33人とすでに設定目標の計100人以上を超えており、さらに1・2年生で各1人が準1級に合格している。年明けにも実施するので、合格者数はさらに増えるものと思われる。

② 生徒の科学的素養を拡大・定着させ、探究心を高める

- ・創造探究授業・高大連携においては、今年度も順調に校外での活動に積極的取り組んでいる。来年度の全クラス文理学科に向けた体制についても、カリキュラムの変更も見据えて準備を進めている。また、海外科学先進校との交流日数の拡大も図り、1月までで12日間を予定している。（H28年度：9日⇒設定目標10日）

③ 豊かな心の育みと規律・規範意識の確立

- ・遅刻指導を生活指導部中心に行っているが12/15現在1,934件（設定目標年間2,000件以下）で、目標達成は厳しい状況である。これは特に3年生の遅刻者数が1・2年より大幅に多いことが原因である。
- ・保健指導、相談室等については、定期的にスクールカウンセラーに来ていただくなど、しっかり

とした体制を組んで進められている。

④ 教職員の資質向上と学校運営体制の確立

- ・校内研修や生徒アンケート等も参考に、今年度も教職員全体の資質向上に意欲的に取り組んでいる。学校の組織的運営についても、「チーム高津」として全教職員が連携をとりながら学校運営を行う環境が整いつつある。
- ・各教員も積極的に工夫してICTを活用しているが、さらに、施設・設備を充実させながらICTの活用に関する数値を伸ばしていきたいと考えている。
- ・地域に開かれた学校づくりの推進として、支援学校との交流を積極的に行っている。またクラブ活動においても、「キャラバン隊」と銘打ったボランティア活動に、生徒たち自ら率先して活動を行うようになっている。今後もさらに活性化させていきたい。
- ・「働き方改革」が言われる中、今年度は特に安全衛生委員会の機能充実に努めている。教職員が長時間の仕事によって疲弊し、ひいては生徒たちへの指導の停滞を招かないよう、しっかりと取り組んでいきたい。

【本年度の取組内容及び各アンケート結果等】

- ・本年度の重点項目についても、現時点で結果の出ている項目については、ほぼ設定目標を達成しており、概ね順調に進めることができている。
- ・昨年度の熱中症の発生状況も考慮して、本年度より体育祭（6月）と文化祭（9月）を分割して実施した。初の試みで心配な面もあったが、行事後の生徒の満足度を調査した結果、体育祭95%、文化祭98%（設定目標90%以上）で生徒からも好評であった。
- ・教職員対象学校教育自己診断についても、現在継続して回収中なので「速報」ではあるが、昨年度と比べて肯定的な回答が増えつつある。特に自治会活動に関しては、肯定的な回答が昨年から約30%増えている。

(2) 校則等について

教育庁より、大阪府立学校の校則が時代やニーズに沿っているのか、社会情勢の変化等も踏まえて現状に適しているかどうか等について、各学校協議会で意見をいただくようにとの連絡があった。本校においては、いわゆる校則等に類するものは明確に定めていないが、「生徒生活指導に関する規定」及び「教職員申し合わせ事項」はある。

これらについて、委員の皆さんから忌憚のないご意見を伺いたい。

(3) 大阪府内の学校のトイレ改修事業に関して

- ・大阪府全域で学校トイレ改修に1校当たり5,000万円の予算をつけた改修事業が進んでおり、本校は、平成31年の春～夏にかけて改修の予定。改修は1系統のみということで、本校では本館の女性トイレのみとなる。男性用のトイレ改修をPTAでお願いできないか検討中。

(4) その他（学校運営協議会について）

- ・「地域教育行政に関する法律」の改訂に伴い、来年度から、現在の学校協議会が、学校運営協議会となる。
- ・変更点としては、学校経営計画の中期目標に関して、協議会の承認が求められることなどである。
- ・また、委員の皆さんの任期については、組織が変わるので、リセットされることになる。現在の学

校協議会での流れを踏まえて、より適切なものとしていければと考えているので、よろしくお願ひしたい。

3. 質疑応答、及びご意見等

(1) 「学校経営計画」の進捗状況等（教職員対象学校教育自己診断の速報を含む）について

- ・学校経営計画の進捗状況については、ほとんどの項目において設定目標を上回るなど、今年度も概ね順調に進めていただいている。引き続き、「チーム高津」として教職員が力を合わせて生徒たちの持てる能力を最大限引き出す指導に努めていただきたい。
- ・教職員対象学校教育自己診断・速報について、アンケートの回収率はどのくらいか。また、アンケートに年齢（年代）を記入するようになってきているか。年代が分かれば、どの世代にどんな負荷がかかっているかが分かり、具体的な対処法が考えやすくなる。
 - ⇒ アンケートの回収率は、現時点で80%以上である（回収途中）。また、年齢（年代）を記入する形にはなっていない。アンケートの意味・意義は、現状を把握するだけでなく、その解決に向けた方策を考えられるようになることであり、次回のアンケートから導入を検討したい
- ・高等学校教員の部活動指導での負担が社会的な関心事となっており、以前参加した教員の研修・グループワークの中でもストレスが多いという意見も聞かれた。このアンケートには部活動の指導に関する内容も含まれているか
 - ⇒ 今回のアンケートには、クラブ活動の指導に関する項目は含まれていないが、別途、ストレスと部活動指導の関連を問うような内容のアンケートは実施している。
- ・アンケートの内容は大阪府内の高等学校すべて同一か
 - ⇒ 基本的な事柄は決まっているが、各学校の状況に応じて聞き方や質問内容は異なっている。
- ・教職員のストレスが異常に高いとか低いとか、高校毎に異なる聴き方ではどうかと思う。共通で実施すれば、満足度の高い学校がどのようにしているのか？その満足度の高い学校をモデルにして平均化していけるためにこのアンケートも有効になる。大阪府の教職員全体の課題を確認するためには同一内容で実施してみるのも良いのではないか。
 - ⇒ 学校教育自己診断とは別に、ストレスチェックというアンケートも実施しており、これは大阪府内全学校が同じ内容で実施している。このストレスチェックの評価では、本校教職員は過度にストレスを感じている実態はないという判定であった。
学校教育自己診断については、どちらかというとも各校の実態を確認することが主な目的となっており、本校ではこの4年間、質問項目はほぼ変えずに実施しており、自校の経年変化を調べるといふ意味では有効に機能していると考えている。
- ・アンケートの中に、先生方が自由に意見を届けることができる項目はあるか
 - ⇒ 学校教育自己診断アンケートの中にはないが、別途、校長・教頭に対して意見を伝えることができる機会（「校長・教頭の学校運営に関するシート」「校長の学校運営に対する提言シート」など）を設けている。

(2) 校則等について

- ・同じ府立学校とは言え、各学校の状況にはおのずと違いもある。それぞれの現状や生徒・保護者等のニーズに合わせて指導していけばよいのではないか。本校においては、現状で大きな問題はないと思うので、大きな修正等は必要ないだろう。
- ・校則で下校時間の記載が無いのはなぜか。

- ⇒ 入学する生徒達に対して配布している印刷物の中に、高校生活における注意や時間に関することが記載されている生活諸規則があり、下校時間に関しては、その中に記載している。
- ・登校時間に対する決まりはないのか。
⇒ 特には定めていない。
 - ・「生徒生活指導に関する規定」の中に休日の登校は認めないとあるが、部活動や行事等との整合性はどうなっているか。
⇒ 学校側が登校を認める内容以外は禁止するという趣旨だが、誤解を招く表現でもあるので、早急に改善する。
 - ・保護者への説明のために明文化した方が良いのではないか。(平成 30 年 1 月付で改訂済)

(3) 大阪府内の学校のトイレ改修事業に関して

- ・バリアフリーについては、どうなっているか
⇒ 本校はバリアフリーのトイレが一カ所しかなく、エレベーターもないなど、他校に比べてユニバーサルデザインの観点からは、遅れていると言わざるを得ない現状である。
アスベストの関係で工事ができないところもあるので難しい面もあるが、引き続き、教育庁に対して、毎年要望を出していく。

今後の日程 (予定)

平成 30 年 3 月下旬